

# マルっとほどがや

保土ヶ谷区で様々な活動をおこなう方々を  
ゆめのね職員が訪問、紹介します



今回お話を聞いた場所

## 神奈川県立保土ヶ谷支援学校 (横浜市保土ヶ谷区)



**校舎外観**

沿革：1976 (昭和51) 年1月 神奈川県立保土ヶ谷養護学校 設置  
 1976 (昭和51) 年4月 第1回入学式 小学部・中学部 計3学級  
 1977 (昭和52) 年4月 高等部設置  
 2004 (平成16) 年4月 高等部舞岡分教室設置 (県立舞岡高等学校内)  
 2010 (平成22) 年4月 高等部横浜平沼分教室設置 (県立横浜平沼高等学校内)  
 2023 (令和5) 年4月 校名を「保土ヶ谷支援学校」に変更  
 住 所：横浜市保土ヶ谷区権太坂1-8-1

保土ヶ谷支援学校は知的障害教育部門の小・中・高等部を設置しています。共生社会の実現に向けて、地域における支援教育をより一層発揮していくため、今年4月、保土ヶ谷養護学校から保土ヶ谷支援学校に校名変更しました。「自立と社会参加」という大きな目標に向けて学ぶ児童生徒を支える先生方に、お話を伺いました。



ゆめのね 橋岡孝男 小倉裕之さん 杉本陽子さん

いろんなお話を聞かせてくださいました！



都会にありながらとっても広く緑豊かでびっくりしました！！

学校紹介用にイラストをご提供いただきました。美術の先生が描かれたそうです。ステキ！



こんなこともしてみよう！

### 『企業と語ろうinほどがや』を主催

企業就労を希望する方や関係機関の方々が、働くときに大切なこと・課題などを懇談会形式で語り合い、意見交換できるイベント。今年は8月2日開催予定です。詳細は保土ヶ谷支援学校のホームページをご覧ください。

小学部から高等部まで幅広い児童が学ばれていますが、現場の先生方はどんな点に留意されて支援にあたられていますか？

**小倉教頭** 小学部の場合は大前提となるのが、ストレングス（個の強み）を含めた実態把握です。その基本にはチーム支援があって、お子さんの下校後「こんなことがあったね」という話を例えば掃除をしながら共有し振り返ります。振り返りの中からその子に合った方向性を考えていますが、一回決めたことが全てではなく、常に試行錯誤を重ねていますね。  
**そういった話が自然体でできる風土が大切になってきますね**

**小倉教頭** 私たち教員が良く使う言葉ですが、「同僚性」（教員同士が学び合い互いに理解を深め支えあう心）を大事にしないと、子どもたちの支援につながりません。例えば個別教育計画を書く際にも、書き上げるまでにはものすごい量の情報を担任、相談担当の教員、心理職、作業療法士等でやり取りをします。その基本となるのは、普段の情報交換・共有です。違う意見があっても当たり前ですし、「そういう見方もあるんだ」と互いを受け入れていかないと、目の前にいる子どもの変化には対応できません。いろんな人がいろんな見方をして、支援につなげていく姿勢を大切にしています。

**杉本教育相談コーディネーター** より良い支援が必要な場合は、多職種と連携し、教員だけではない視点、地域に関わる方々の意見を参考にします。一度立ち止まって、いろんな目で見つめ直す作業も大事ですね。

保土ヶ谷支援学校の教育理念である「自立と社会参加」からも見ても良さがありませんか？

**小倉教頭** これは個人的な印象ですが、分教室が設置されている高校の生徒さんは挨拶が本当によくできる子どもたちなんです。日常的な交流はありませんが、高校のなかにいるということが生徒の大きなモチベーションになっていると感じますね。  
**進路選択では本人の意思をいかに尊重するかが大事になると思いますが、具体的にどのような点を大事にされていますか？**

**小倉教頭** 担任と進路担当の教員と一緒に、大きな選択肢の中から少しずつ目標を絞っていきます。高等部1年から本格的に職業教育が始まりますが、6月は「働くことを学ぶ週間」というテーマで「自分の強み・弱み・課題を知る」という学習をしました。  
**自分で自分を知る作業ですね**

**小倉教頭** はい。たぶん弱みはたくさん知っていると思うので…、できれば、自分の強みを多く知ってもらい自信を持ってもらいたいです。



現在は60以上の事業所（放課後デイ等サービスや移動支援事業等）が支援学校と連携しているとのこと。すごい数！

放課後等デイサービス事業所の急増など、障害児を取り巻く環境は大きく変化しています。社会や家族の変化をどうぞ覧になっていますか？

**小倉教頭** この仕事を始めて26年になりますが、昔は下校する子どもたちをバスに乗せ、教員みんなで手を振って…という感じでした。いまはいろんな事業所が送迎車で子どもたちを迎えに来てくれて、景色ががらりと変わりましたね。

**杉本教育相談コーディネーター** 放課後等デイサービスのような学校以外の場所で学ぶことはたくさんあると親が思います。ただそれと並行して大事になるのが、親子の過ごし方であって、家族としてどう過ごしていくかだと感じます。家族にとってもそういった時間が子どもへの理解につながりますし、結果としてより良い「出口」（卒業）に向かっていけるのかなと思いますね。

**最後に、「子ども最善の利益」という観点に立たれたとき、支援学校のみなさんはどんなことを思われますか？**

**小倉教頭** “なりたい自分”にまっすぐ向かっていく気持ちをみんなに持ってほしいと思っています。もちろん、向かう先が見つけられなかったり、一人で考えるのが難しかったりする子どもが支援学校にはたくさんいます。そういう子どもたちのお手伝いはもちろん、保護者の皆さんともコミュニケーションをとって進めていくのが私たちの使命と思っています。

**遊具のある南庭**  
小学部の児童が元気に過ごす遊具では、ピーマン、パジル、里芋などが育てられていました



**中学部生徒の手作りオーナメント**  
12月になると、権太坂境本自治会館のクリスマスツリーに手作りのオーナメントを飾っています。7年ほど続く地域との交流の機会になっています

**高等部・分教室の存在も一つの特色と感じますが、どのような良さがありますか？**

**小倉教頭** 神奈川県教育委員会は共生社会の実現に向けてインクルーシブ教育を進めています。舞岡分教室が県内初の分教室として20年前にスタートしましたが、高校の中で学ぶと本校（支援学校）とはまた違う刺激が生徒にはあるのかなと思いますね。

